# 凛

# 観る者すべてを

# 魅了せよ

## 平成27年度

# 体育祭が開催されました

九月六日（日）、生徒たちは四つの団に分かれ、優勝を目指して各競技に参加しました。天候が危ぶまれる中でしたが、各団ともに一丸となって競い合い、体育祭は大いに盛り上がりました。

その結果、総合優勝は赤団（三年四組・二年三組・一年三組・一年五組）が勝ち取りました。

また、体育祭に先立ち八月三十日（日）には、ＰＴＡのみなさんのご協力のもと、校内清掃活動を行いました。参加していただいた保護者のみなさん、ご協力ありがとうございました。

波佐見高校

発行所
長崎県東彼杵郡
波佐見町長野郷312−5
県立波佐見高等学校
ＰＴＡ広報委員会
TEL 0956−85−3215
http://www.news.ed.jp/hasami-h/

印刷
（株）康真堂印刷

校訓
自律
積極
究理

## 「親として」・・・

ＰＴＡ会長　山口　辰彦

平成二十七年度、ＰＴＡ会長を務めさせて頂く事になりました山口でございます。

この一年、保護者の皆様方と、「学力向上」、「生活指導」、「クラブ活動」にお力添えを頂いている先生方に、感謝の念を持ちながら、これから一年間務めさせて頂きます。よろしくお願いします。先日行われましたＰＴＡ総会の折には三日間の日程を組み、保護者全員参加を目指し、先生方・役員様のご協力のもと約七十％近くの会員の皆様にご出席頂いて開催いたしました。改めて、ご出席頂いた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

ＰＴＡ総会の折、三つの提案をさせて頂き、一つ目は子ども達の容儀について、二つ目は補習への参加、三つ目に携帯電話・スマートフォンの持ち込みの事を、保護者と学校が一緒になって指導しようと申し上げました。提案の理由をお話させて頂く中、すべての会員の方にご賛同を頂き、「波高ＰＴＡ、三つの提言」が確立しました。私も一年生の息子を持つ親の一人として、子どもに身につけさせたい事が沢山あります。お金や物にばかり目を向けるのではなく、自分の道を歩み、決めた事を最後までやり遂げる、そして何より感謝の気持ちをしっかり表現できる人間に育ってもらいたいと願っております。

社会にでるまでには、身につけさせる「育て方」を努めていこうと決意しております。子ども達も沢山の学校生活の中で、目標を持って打ち込んでおります。親の一人として、しっかり応援して参りましょう。

私の一年間の理念は、「元気よく」、「自信を持って行動し」「失敗しても本気で関わる人である事」を心に持ち、ＰＴＡ・母の会役員の皆様とともに楽しく、子ども達への応援をやり尽くそうと決意を新たにいたしております。

私たち親は、子どもが産まれた時から一生懸命応援してきました。子どもが巣立つその時までは、親としてしっかり関わっていきましょう。皆様にはこれからも沢山のご協力をお願いしつつ、私の挨拶とさせていただきます。

# 「親離れ子離れ」

母の会会長　松永 佐百合

今年度、母の会会長を務めます松永です。息子が波佐見高校に入学したと同時に母の会の役員を務めさせていただき、三年目を迎えました。山川会長の後任という事ではっきり言って絶対的に重圧ですが、この二年間、山川会長がしてこられた活動を見ていて、たくさんの事を学びました。その根底にあるのは、会員である母親たちへの思いやりの心と、全ての波高生への愛情の深さです。母の会の活動のたびにそのことを強く感じさせられました。

「思いを伝える、思いを残す、思いを聴く、思いを感じる。」思いを伝えるには、相手を理解し、ありのままの自分を安心してさらけ出さなければなりません。しかし、昨今、家族でも親と子の間では、相手を理解できていないまま、過大な思いを一方的に伝えるあまり様々な事件が起きています。よく他校の親から「波高はＰＴＡの行事がいっぱいあっていいよね。」、「高校生になっても、そがん学校に行かんばと？」と訊かれます。

みなさんはどうでしょうか。家で子供との会話は何分ぐらいしていますか？両親共稼ぎ、食事の時間もばらばら、休日も互いの予定がばらって、家族一緒に過ごす時間など一ヶ月に何回あるのでしょうか。

ある本に「子離れできない親は見苦しい」とありました。「親離れ子離れ」できない原因は子供ではなく親にある場合が多いということです。幼い頃は、愛情を注いで育ててきたが、今や、高校生。個人としての人格を認めなくてはいけない。大昔、元服の年齢であり、独立しなければならなかった。子供は成長するにつれ親の本心を見抜き、そこにつけこんで甘えて独り立できない。親も子に甘えているから安心してしまうのだと。又「親はなくても子は育つ」。責任感が人間を成長させ、その任に堪えられるか心配でも、その場に置かれれば人間は変わると。

高校生の今が「親離れ子離れ」の時期なのではないかと思うのです。子供を一人の個人として見ていかなくてはいけない段階なのだと思います。どんなに心の奥からたまらなく心配でも遠くから静かに気長く見守り応援する。そんな親がいてもいい。母の会はそんな保護者の集まりと言っていいのではないでしょうか。

だから、私は決まって、他校の親にこう言うのです「うらやましいやろ。」と。是非、たくさんある、ＰＴＡ・母の会の活動に参加し、一緒に子供達の思いを感じ、さり気無く見守り応援し、「チーム波佐見」をワクワクさせていきましょう。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

# リヤカーの思い出

校長　野田 定延

久しぶりにリヤカーを見た。避難訓練の様子を伝えるテレビ番組である。高齢者など、一人で移動が困難な方々の命を守り、安全に避難させるためにリヤカーを使っていた。リヤカーには懐かしい思い出がある。小学生の時、リヤカーを引きながら大きな声を出して町内を回り、廃品回収をしたこと。大学生の時、下宿を引っ越すときに家財道具を乗せたリヤカーを友人に押してもらったことなどである。

中でも、最も思い出深く記憶しているのが母のリヤカーである。私の実家は野菜や米を中心とした専業農家であった。母は夜明け前から畑に出て、新鮮な野菜を収穫してくる。その収穫した野菜や丹精込めて漬けた漬物などを、毎日リヤカーの荷台に山のように載せて、町に行商に出かけていくのである。行きは下り坂、帰りは上り坂。もんぺに、日本手ぬぐいで頭から頬被りをしていた。母の野菜や漬物は人気が高く、いつも完売して昼頃帰ってきた。幼い私は、その母の帰りがとても楽しみであった。それというのも、必ずお土産があるからだ。おやつ代わりのパン、饅頭、果物（ブドウのときが多かった）だった。だから、完売した野菜の代わりにリヤカーの荷台に何が載っているか確かめるため、私は母の姿が見えるとわくわくしながら一生懸命にリヤカーに向かって走ったものだ。

人は生きていく上で、それぞれのリヤカーを引いているのではないかと思う。私の思い出に残るリヤカーの荷台には、いつも私の心をわくわくさせる何かが載っていた。空き瓶や古新聞、布団やテレビ、そして、野菜、お土産。しかし、大人になり、親になった私のリヤカーには楽しく嬉しい物だけではなく、ずっしりと重い物も乗っている。その重さに音を上げそうになることもあるが、どれも私にとってかけがえのない大切な物ばかりである。ここはしっかり足を踏ん張って、少しずつでも前へ引いていこうと思う。

今の高校生が引くリヤカーには、どんなものが積んであるのだろうか。時代が進み、いろいろなことが便利になった分、その積荷も多岐にわたり、他者にはうかがい知れない部分が多くなった気がする。もしかしたらそれは、本人にとって重い重い荷物かもしれない。高校３年間で親が子供にしてあげられることはそれほど多くない。子供が重い荷物に苦しんでいる時、親にできることは何だろう。小さい頃とは違い、親の手出しや口出しを嫌がるので、手助けするのはなかなか難しい。それならば、親自身が現実の厳しさにくじけず立ち向かい、懸命に自分のリヤカーを引く姿を子供に見せるのはどうか。その後ろ姿が、子供を励ますことにつながりはしないか。そして、我が子を笑顔にするとともに、我が子が引くリヤカーをそっとではあるが力強く押してやることにもつながるのではないかと思う。子供の成長には、親自身がしっかり自分の人生を歩むことも大切ではないかと思うのである。

# 保護者からの声　お子様の携帯電話・スマホの使い方は、大丈夫ですか？

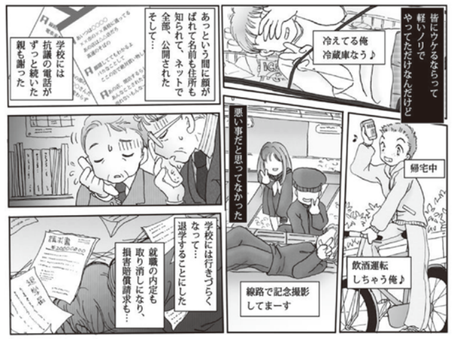
- 家では、時間やルールは特に決めていないので、早朝から始まり学校から帰って帰宅するとすぐ携帯を扱い、依存しているとしか思えないほどで大変心配です。何か良いアドバイスをお願いします。
- 県外の知らない人から、家の住所にお手紙きたことない？（子ども宛てに）子どもは、なんとなく知っていたけど・・・。
- 我が家では、特別なルールは設けてはいませんが、携帯が手離せないという事はありません。人と比べる事ではありませんが、比較的、使用時間は長くはないと思います。でも、たまには使用時間や怪しいサイトにはいかない、メールとかも顔が見えないので、文章には気をつけるなどの話はします。

PTA総会において、PTA・母の会は三つの提案を行い、承認されました。その提案の一つが「携帯電話・スマホの厳格な使用ルールを守らせましょう！」です。

文部科学省でも、子供たちの情報モラルを考えるキャンペーン「子供のための情報モラル育成プロジェクト」が開始され、子供たちの情報モラルの育成する取組を推進しています。

親の責任で、子どもたちに携帯電話・スマホを使用させましょう。何かトラブルにあってからでは遅いのです。

## “ 子どもに襲いかかる危険は、親の力でブロックしましょう。”




### ☑ 危険その1　それって犯罪かも！

- 油断は禁物
- 過信してはいけない
- 断る勇気を持とう！

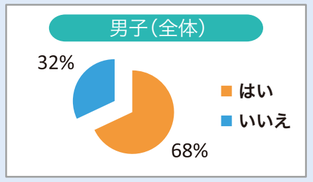
### ☑ 危険その2　不適切な投稿で自滅！

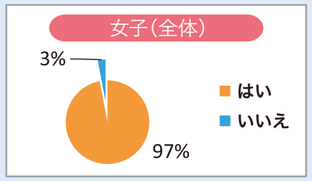
- 不適切な投稿に注意！
- 自分が面白がって投稿したことで一生を台無しにすることもある

「ちょっと待って！スマホ時代の君たちへ」（２０１４年度版リーフレット）文部科学省ＨＰより

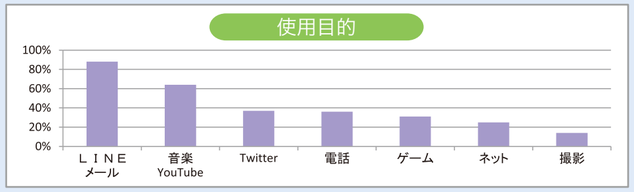
## 5月実施　携帯電話・スマホに関する波高生アンケート調査の結果

### 1 携帯電話・スマホを持ってますか？

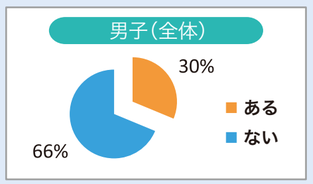


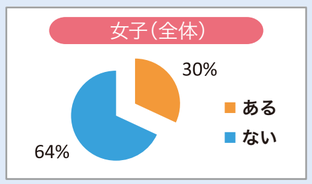




### 2 携帯電話・スマホを使って、主にどんなことをやってますか？

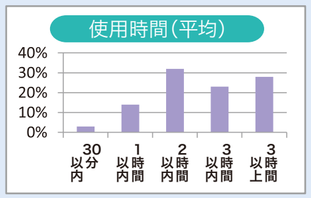


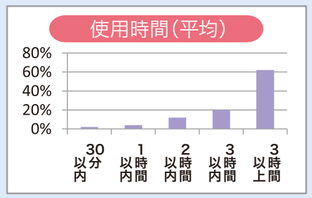

### 3 携帯電話・スマホについて、家庭での約束事（使用ルールなど）はありますか？



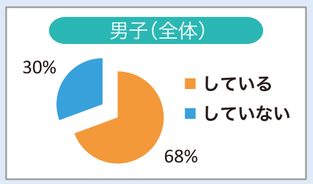



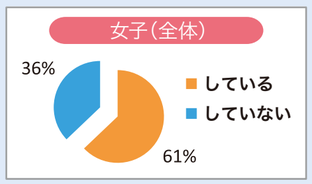

### 4 携帯電話・スマホの使用時間はどれくらいですか？




### 5 携帯電話・スマホには、フィルタリングをしてますか？




※平成27年5月実施　対象：波高全生徒

## 保護者からの声

- 家ではずっと携帯ばかり扱っており、携帯に時間をとられている感じです。時間を決めてするように！と注意はしていますが、いつも返事だけで実行しないので困ってます。野球部の携帯禁止が羨ましいです。
- 「与えたのも親、使わせるのも親の責任」とわかってはいるが、実際は家族で決めたルールは守られていません。
- すべき事がわかっているのに、スマホに夢中。「わかってるさ！」との子どもの返事に「スマホでは自分の将来は開けないよ」。いつ気付くのか。

# やるばい よかばい 長崎大会に参加して

（第59回九州地区高等学校ＰＴＡ連合大会報告）

教頭　小柳　勝彦

6月19日（金）に第59回九州地区高等学校ＰＴＡ連合大会「やるばい よかばい 長崎大会」が長崎県立総合体育館（長崎市）で開催され、本校からはＰＴＡ役員10名、職員2名が参加しました。

午前中は分科会で「ココロのねっこをつなぐＰＴＡ活動～思いやりの心と志を育むために～」というテーマのもと、パネルディスカッションが行われました。その中で、『心の距離が近いと体の距離も近くなる』ことや、更に、もう一歩踏み込んで『時には他人の領域に入ってでも、コミュニケーションをとることの必要性』について話され、とても考えさせられました。

保護者の中には、子どもの成績・行動が自分の評価のようで、びくびくすることがあるという話がありました。多くのＰＴＡの方の共感を得ていたようです。また、一番困ったときに親に相談できない子どもが増えているという話では、『信頼できる大人が1人でもいれば子どもは変わることができる。』そのためにできることを大人が、しっかりと実践していくこと、親が楽しむこと、自分から飛び込んでいくこと、1回で成功するとは思わず、何回もチャレンジしていくことなど、数多くの提案がなされ、学ぶことが多い会でした。

午後はアトラクションで、希望ヶ丘高等特別支援学校による和太鼓、長崎女子高校による龍踊が行われ、見事な演技で会場全体を魅了していました。記念講演では渡邉幸義氏（アイエスエフネット代表）が「人が持つ可能性　人はもっと関わりたい」という演題のもと、障がい者の雇用について話されました。中でも、その人にとって働きにくい状況があれば、ちょっとした配慮をすることで普通に働けるという話が印象的でした。人はみんな違うのだから、苦手なものも人それぞれであり、できないということで見捨てるのではなく、相手について知り、ともに目標に向かうことで共に成長できるという考えは学校現場でも言えることだと思います。

今日のいろいろな視点・考え方を参考に、波佐見高校も本校ＰＴＡと協力しながら、一人ひとりの生徒たちが輝く教育活動の実践に一体となって取り組んでいきたいと思っています。

# 未来圏からの風をつかめ！ ～新時代を担う君たちと共に～

（第65回全国高等学校ＰＴＡ連合岩手県大会報告）

母の会顧問　山川　千春

8月20～21日の二日間、第65回全国高等学校ＰＴＡ連合岩手県大会が、岩手県産業文化センターにおいて開催されました。本校からは、野田校長先生をはじめ三人の役員で参加してきました。

私たちが参加したのは、第二分科会「進路指導とＰＴＡ」（キャリア教育の推進とＰＴＡ活動）と第四分科会「家庭教育とＰＴＡ」（家庭教育の役割とＰＴＡ活動）の二つの分科会です。第二分科会では、秋田県立能代高等学校、静岡県立沼津東高等学校、奈良県立平城高等学校、長崎県立西彼農業高等学校の各ＰＴＡ関係者四名による実践発表とディスカッションがありました。

中でも、奈良県立平城高等学校のＰＴＡ会長平井信明氏による『子どもの未来（あした）を育てる「it Heijo!」～平成コミュニティへの参画・協働を通して～』というテーマでの実践発表が心に残りました。学校運営への参画協働、「平成コミュニティ」へのアプローチ、「セーフティスクール平城」と称した平城高校生が地元の小学生の登校を見守る活動、最寄り駅前で通勤・通学する人たちに向けてのあいさつ、「平城あいさつ運動」など、たくさんの実践報告でした。

本校の山口会長も質問をされ、「平城あいさつ運動」を始めた経緯などについて尋ねました。その回答は、近年、家庭や地域の教育力の低下が指摘される中、規範意識や社会性の向上の必要性を感じている、そこで、生徒たちの健やかな成長のため、「地域と共にある学校づくり」として、あいさつ運動を行うことで、自分たちが地域を大切にするんだという心を子供たちに芽生えさせたいからであるとのことでした。また、「学校が変われば地域も変わる」「地域が変われば子供が変わる」「子供が変われば未来が拓かれる」「Global が⬇ぐーっとローカルに！」といくつかのフレーズを使われながら、笑いを交えて内容のある話をされました。

波高ＰＴＡも目標は同じです。保護者が学校や先生方の教育活動に協力・支援し、一体となって子供たちを育んでいきたいと思っています。

二日間参加させていただき、改めて今後のＰＴＡ活動に取り組んで行く上で、良い勉強になりました。

## 学校点描

▲全国高校選手権長崎大会

7月

▲野球全校応援

▲高総体開会式

6月

▲九州高文連美術・工芸展壮行式

▲交通安全教室

5月

▲PTA総会

▲さわやか挨拶運動

4月

▲歓迎遠足

▲1年生宿泊研修▼

## 編集後記

本年度初の「山脈」は、ここ数年例にない2学期発行という事で、盛り沢山の内容に仕上がりました。今回ご寄稿をお願いいたしました皆様方には、お忙しい中快くお引き受けいただき、大変感謝しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

ご意見・ご要望等ございましたら、どしどしお寄せください。今後の紙面作りに、いかしていきたいと思います。

## これからのPTA・母の会活動

11月 6 日（金）文化発表会・合唱コンクール
11月 7 日（土）諫早・大村・東彼地区ＰＴＡ研修会
11月22日（日）PTA・母の会研修旅行
2月 5 日（金）校内ロードレース大会
2月29日（月）PTA・母の会広報紙『山脈（第76号）』発行予定